
夢の世界へようこそ[名探偵コナン]

アヤッチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の世界へようこそ「名探偵コナン」

【Nコード】

N00560

【作者名】

アヤツチ

【あらすじ】

高木刑事が突然、行方不明になった。

一体、どこへ行ってしまったのだろうか？

それから、一年。

佐藤刑事が少年探偵団にそのことを話し

佐藤刑事と共に、少年探偵団が動き出す！

第一話：高木刑事、行方不明！？少年探偵団出動！ **〔修正しました。〕** **（前書き）**

注意書き

- ・こちらは二次作品です。
- ・アヤツチは高木刑事ファンです。
- ・異世界の話になります。
- ・大丈夫な方はお進みください。

第一話：高木刑事、行方不明！？少年探偵団出動！ **〔修正しました。〕**

警視庁は何故か少し騒がしい
特に佐藤刑事

佐藤「……………」

佐藤刑事は顔色が悪い
実は

高木刑事が一週間行方不明なのだ―

このことは警視庁のものしか知らなかった
しかし、見つからず、一年が過ぎた

一年もたてばもうどこかで生きてることを願うことしかなかった
コナン達がそれを知るのは行方不明から一年もたった時だった
コナン達は佐藤刑事に呼ばれて、警視庁に来た

3

歩美「どうしたの？佐藤刑事？」

佐藤「子供にいうことじゃないってわかってるんだけど。」

元太「大丈夫だぜ！俺ら少年探偵団にまかせろよ！」

佐藤「ありがとう。」

コナン「一体、どうしたんですか？」

佐藤「……高木君は……実は、出張でいなかったんじゃないの。」

光彦「ええ！？」

事件の時、高木がいなかった理由は出張とってあったのだ

歩美「じゃ・・・じゃあ・・・」

光彦「まさか・・・行方不明・・・？」

佐藤「・・・・。」

佐藤は黙りながら首を縦にふる

佐藤「高木君は君達と仲がよかったかし・・・

心配してほしくなかった。だから、黙ってたの」

みんなが黙り込んだ時

元太「じゃあ、協力しようぜ！俺達、少年探偵団が高木刑事を見つけてるんだっ！！」

歩美「そうね。」

光彦「そうですね。情報だけでも、見つかるかもしれませんし！」

歩美「コナン君も協力するよね？」

コナン「ああ。で、佐藤刑事。なんか、手がかりはなかったんですか？」

佐藤「え。そうね・・・。」

少年探偵団が協力することになった

佐藤は少し希望が見えたかもしれない

第一話：高木刑事、行方不明！？少年探偵団出動！ **「修正しました。」** **（後書き**

一話・・・。

短いすね。

高木君どこへ？

異世界関係ということは忘れないでね。（ネタバレ？（おい。

（本文、修正いたしました。よく、間違えるので、スイマセン^^；

）

第二話：次元を超えて・・・（前書き）

さーとうとう、異次元にいきます。

え？早い？だって、そこいかないと・・・。

まあ、見たらわかるよ。（なんだコイツ。

あ、佐藤刑事を佐藤といってましたが、なんか。違和感があるので。
下の名前の美和子をつかっていきますw

（一話のときは下の名前知らなかったから、佐藤といってますw）

第二話：次元を超えて・・・。

歩美「佐藤刑事。高木刑事と最後会ったのっていつなの？」

佐藤「え？えっと・・・。」

美和子が少し考えはじめた

佐藤「行方不明といわれる一週間前・・・。」

美和子は少し悲しい顔で歩美にいった

歩美「・・・・・・・・。」

（佐藤刑事・・・かわいそう・・・。）

歩美が同情してるうちにコナンが質問をする

コナン「で、どこで会ったんですか？」

佐藤「そうね。確か、東京タワーの展望台だったわ。」

歩美「え！？もしかして、デート！？」

元太「え！？マジかよ！？どうだった！？」

光彦「歩美ちゃん。元太君！」

歩美＆元太「あっ・・・・・・・・。」

歩美につられて元太が騒ぐと光彦が名前を呼んで注意した
コナンはいつものことなので、あまり気にしなかったが
美和子は懐かしそうな目になって、涙目になりはじめた
デートは本当で、そして、一年も会ってないのだから・・・。

光彦「な・・・泣かせてしまいましたね・・・。」

歩美「・・・・・・・・。」

元太「・・・・・・・・。」

佐藤「あ、ごめん。別に、なにもないからね。」

コナン「・・・僕たちが見つつけてあげるよ。」

コナンは笑顔で美和子にいった

美和子は少し元気がでたのか少し笑顔になる

コナン「必ず・・・な。」

コナンのその一言はあの新一のような、強気な声だった

聞きこみによると、アパートに帰宅後。高木はそのアパートにでた姿は見られてない

仕方なく、大家さんから高木の部屋の合鍵を借りることができた

元太「じゃあ、手分けして、探してみようぜ。」

歩美「うんっ」

光彦「わかりました！」

コナン「ああ。」

美和子は情報収集のためあとから来るらしい

コナンは寝室のほうへいく

そこはベットと棚。

そして、棚の上においてあるのは、ライトと・・・

美和子と撮った写真一枚――

コナンはそれを見て、蘭のことを思い出す
美和子の気持ちがかかる気がしたのだろうか・・・。

コナンが棚やベットの調べるがなにもない
コナンが戻ろうとしたとき

コナン「・・・？」

声が聞こえてくるノイズでよく聞こえない

さ・・・と・・・う・・・さん・・・

コナン「!？」

この声って・・・。

コナン「高木刑事・・・？」

た・・・す・・・け・・・て・・・くだ・・・さい・・・。

ザー・・・ザー・・・

ザーーーーーー

ノイズで声が聞こえなくなった

コナン「高木刑事・・・!？」

コナンはもう一度ベットを調べる
すると、何故かぬくもりがあった
まるで、さっき、人が寝てたかのような

コナン「何故・・・？・・・ん・・・？」

コナンが突然、激しい眠気に襲われた

コナン「くそ・・・なにが・・・」

あったんだ・・・？

コナンの視界は真っ暗になった

・・・。

・・・。

・・・。

君、大丈夫？―

声が聞こえてくる

この声もうっすらとしか聞こえない

意識が薄いせいだ

でも、なんていつてるかはわかった

どこかで聞こえたことがある・・・声

コナンはうつすらと意識をとりもどす
そこは、森の中・・・そして、その声の主は・・・。

第二話：次元を超えて・・・（後書き）

・・・ねー。うん。

え？うp主は病気だって？

ふざけんじゃないわよー！↑ワ○ピースのボン・○レー風

三話どうなるんだろねー。声の主がわかった人にいっておく。

その人は。。。

ちよっと、変な格好でできます。（王子の服とかそんなんじゃないよ。）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0056o/>

夢の世界へようこそ[名探偵コナン]

2010年10月10日11時17分発行